

日本声楽発声学会 学会通信 第50号

2023年(令和5年)10月

◆ご挨拶

会長 佐々木正利

仲秋の候、皆さまにはますます御健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

とは申せ、本年は残暑去り難く厳しき9月でしたので、体調管理に苦慮されたことと存じます。夏の疲れが出やすい時節、くれぐれも体調を崩されませぬようご自愛ください。

さて、本年6月4日に開催された第59回総会において承認されました新役員による執行体制が敷かれてから早4ヶ月が過ぎようとしていますが、8月23、24日の両日、本年も無事に夏季研修会が開催され、好評裡に終了いたしました。後段にその実施状況を報告いたしますが、まずは総会終了後の諸々の動向についてご報告申し上げます。

新理事会構成メンバーは、3期目が5人、2期目が5人、そして何と1期目が7人の、総勢17名からなっており、フレッシュな顔ぶれが揃いました。ベテランから新人まで、とてもバランスの良い人材が確保できたものと自負しております。これまで既に5回の理事会を開催、活発で斬新な意見が飛び交うなど、コロナ禍で低迷した学会活動が、より魅力的なものに復活していく兆しをしっかりと感じております。過去のレガシーを受け継ぎ学び、今日のためにベストを尽くし、未来に対して希望、明確なビジョンを持てるよう、理事の役割分担を後段のように決めました。

巷では「これからはAI(人工知能)・IT(情報技術)の時代だ」としたフレーズをよく耳にいたします。またペーパーレスの取り組みも久しいものとなりつつあります。そのようなさなか、本学会もアナログの良さを大切に残しつつ、こうした流れに柔軟に対応していきたいとの思いから、新たにIT促進部を立ち上げました。

さて、日本声楽発声学会は、1964年に「発声指導法研究会」として声楽学習の新軌道を目指し発足、1971年に「日本声楽発声学会」と改称されて、来年は60周年の記念の年を迎えます。その間、音声医学と脳科学、身体学とも連携して、声楽発声における実践的、科学的解明を目途とし共同研究に取り組んでまいりました。また教育界とのつながりを大きな命題とし、学校教育現場における発声指導法にも深く関与していきたいと思っております。

60周年の記念事業として、大々的に記念誌を発行したり特別講演会などを開催したりすることも考えましたが、コロナ禍もあって会員数も激減した現実を見る時、やはり落ち着いた地固め、体力作りに専心することとし、12年前に発行した『声楽発声用語集』を大幅に改訂再編集することといたしました。そのため学会内に新たに「声楽発声用語集編纂検討委員会」(委員長:西浦美佐子理事)を立ち上げました。

また、声楽の多様性(ジャンル、メソッド)、学会員の資格、教育との絡み等が、学会の目的に深く関わってくることを踏まえ、入会者を増やすためには開かれた学会にすること、そして、誰のための何をする学会なのかを明確にする必要があるとして、「学会理念、および倫理綱領作成検討委員会」(委員長:

小森輝彦理事）を新たに立ち上げました。その実働の第一歩が踏み出されたことをこの学会通信でまずもってお伝えしたいと存じます。

出来る限り多くの会員の皆さまが、例会その他の本学会の企画にご参加くださり、皆さまの学会として発展いたしますことを祈念するものですが、我々役員が皆さまのために身を粉にして働き、学会を育むにふさわしい矜持と気概と責任感を持って臨めますよう、ご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます、会長挨拶といたします。今より後２年半、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆理事と職務分担

佐々木正利、池田京子、齊藤祐、森井佳子、竹田数章、入川めぐみ、上杉清仁、梅村憲子、岡崎順子、小森輝彦、三枝英人、佐橋美起、鈴木慎一郎、田中昌司、西浦美佐子、吉田浩之、渡辺修身 計 17 名

○部長、●副部長、◎執行部

会長	佐々木正利◎
副会長	池田京子◎
副会長（事務局長）	齊藤祐◎
事務局次長	森井佳子◎
エグゼクティブ・アドバイザー	竹田数章◎
総務部（含事業企画）	○佐々木正利、●池田京子、齊藤祐、森井佳子
財務部	○竹田数章、●入川めぐみ、森井佳子
研究・教育部	○池田京子、●三枝英人、梅村憲子、田中昌司、渡辺修身
演奏部	○齊藤祐、●佐橋美起、上杉清仁、岡崎順子、吉田浩之
広報部（情報・国際・学会通信）	○森井佳子、●齊藤祐、入川めぐみ、上杉清仁
編集部	○鈴木慎一郎、●田中昌司、三枝英人、竹田数章、西浦美佐子、渡辺修身
IT 促進部	○小森輝彦、●入川めぐみ、上杉清仁、鈴木慎一郎、佐々木正利
事務局	佐々木徹（主査）、佐々木笑美子（補佐）、川上ひろみ（補佐）

◆新理事就任挨拶 今期の会長推薦理事 7 名から、就任にあたり抱負をいただきました。

入川 めぐみ (いりかわ めぐみ) ピアニスト Klavier Platz 主宰

◇略歴 武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。在学中、合唱研究部に所属し、声楽を山田実氏に師事。卒業後、合唱団や声楽・器楽の伴奏活動を本格的に開始し、故青木八郎氏のもと、千葉県各地の合唱団ピアニストとして研鑽を積む。1993 年、第 2 回カワイ SCAPE クラシックオーディション伴奏部門で最優秀賞を受賞。2002 年、日本声楽発声学会入会。市川市行徳にて音楽教室 Klavier Platz を主宰し、ピアノ、声楽などのレッスンをを行っている。また、2015 年より FAVEUR コンサートシリーズを企画。現在、コール風（千葉）、女声コーラスう・らら（浦安）指揮者、コール・キリエ（川崎）ピアニスト。松戸声楽勉強会公式ピアニスト。全日本ピアノ指導者協会正会員。二期会フランス歌曲研究会ピアノ会員。

◇抱負 ピアノ科出身でありながら、発声とは…発音とは…と考えながら過ごす日々です。伴奏者として声楽レッスンに同行すると、教師が指導で使う言葉と歌い手の受け取り方にズレがある場面にしばしば遭遇しますが、多くの場合、教える側の体験のみに基づく感覚的な言葉が、歌い手の経験・体感と一致していないことが原因のように思えます。近年、スポーツにおけるトレーニングが科学的根拠に基づいて行われているように、声楽もまた、科学的知見と観察力、そして論理性をもってレッスンし、さらに音楽性を高めるべくアドバイスがなされる、そんな必要があるのではないのでしょうか。本学会におけるさまざまな研究を会員の皆さまが実践に結び付けられるよう、「会員とともにある学会運営」を目指して歩んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

上杉 清仁 (うえすぎ すみひと) カウンターテナー 昭和音楽大学講師

◇略歴 高知県出身。千葉県松戸市在住。高知大学人文学部卒業。同大学院音楽教育学専修修了。東京藝術大学修士課程、後期博士課程を修了し博士号を取得。スイス政府奨学金を得てバーゼル音楽院に留学し、G.テュルク、A.ショルのもとで研鑽を積む。声楽を小原浄二、野々下由香里、伊原直子、故戸田敏子、P.コーイ、R.ブレイズ、P.ベルタン、故 C.オッカーの各氏に師事。柔らかい美声と多彩な表現力には定評があり日本を代表する正統派歌手として活躍。また発声解剖学にも造詣が深く、発声指導者としても注目を集めている。声楽アンサンブル『ラ・フォンテヴェルデ』メンバー。

◇抱負 この度、佐々木会長から推薦理事を拝命いたしましたカウンターテナーの上杉です。理事の中では一番の若輩ですが、学会の発展のため尽力させていただきます。

私が学会に入ったのは、藝大大学院に入学した時、元理事長の故米山文明先生との出会いがきっかけでした。米山先生は、カウンターテナーである私の声に興味を持ってくださり、診察台に座ったまま 1 時間近くもお話をするというのが訪問時の常、後の患者さんには大変申し訳ないと思いつつも、先生が治療された大歌手や、解剖学に関するお話は大変勉強になりました。

発声指導において最も大切なことは、個である「声」の魅力を発見させ気づきを与えること。そして、イメージのみの発声誘導や、指導者がやってきた声楽的アプローチのコピー&ペーストではなく、解剖生理学、脳科学、運動生理学的見地を深めることによって、個としての「声」をしっかりと機能的に使えるようにすることだと、私は考えます。私の大切にしている、指導の一丁目一番地です。

理事としての任期。しっかり勤めさせていただきます！宜しくお願いいたします。

梅村 憲子（うめむら のりこ） ソプラノ 福井大学特命教授

◇略歴 東京藝術大学卒業後、シュトゥットガルト音楽大学大学院に留学。ブルース・アーベル氏に師事。リートクラスではドイツリートをコンラード・リヒター氏に学ぶ。アーベル先生は 2000 年より 16 年間毎年来日してくださり、私自身も生徒たちも日本にしながら先生のレッスンを継続して受講できたことに本当に感謝しています。藝大在学中よりバロック音楽に興味を持ち小林道夫先生、佐々木会長はじめ諸先輩方から多くを学ぶ機会を得ました。帰国後黎明期のバッハコレギウムジャパンに所属。神戸松蔭女子学院大学に非常勤講師として奉職し、素晴らしいチャペルとパイプオルガンの下で鈴木雅明氏の薫陶を受け過ごせたことは、自分の音楽の基礎になっています。2011 年から 2 年間、東北文化学園大学に特任教授として勤め、大船渡市で避難所であったリアスホールでのコンサートは強く印象に残っています。2013 年より福井大学教育学部に着任。2023 年 3 月に一旦退職しましたが、現在も特命教授として福井大学教育学部で奉職しています。

◇抱負 福井大学では様々な先生方との交流により、声楽家としての世界を広げることができています。お箏の先生と行っている既存の日本歌曲の箏伴奏による演奏は、自分の中の和の感性と西洋音楽との関係の悩みに新しい光を見いだせた取り組みであり、今後も継続して新しいレパートリーを開拓していきたいと思っています。目下進めている本学会会員でもある工学部の森幹男准教授との歌声のフォルマントの解析は、声楽家が己の声を知ることはもちろん、私にとっては音楽の教員を目指している学生たちに声楽を教える意味を明確にしていく研究でもあります。今後学会員の皆様に役立つ研究となるよう森先生と協力して発展させていきたいと思っています。力不足ではありますが、佐々木会長の下、少しでも学会に貢献できるよう力を尽くしていく所存です。

岡崎 順子（おかざき じゅんこ） 声楽家 岡山県立大学名誉教授 岡山大学教育学部非常勤講師

◇略歴 岡山大学教育学部卒業 愛知県立芸術大学大学院修了 1990 年ドイツ・デトモルトに留学

◇抱負 大学院生時代に『宗教音楽史』を受講し、初めてバッハのカンタータを聴かせていただいた時の驚きと喜びは今でも忘れることはありません。（何分今から 50 年前の話です。） その音楽は生き生きとして美しく、言葉は流れるように語られていました。いつか演奏できたら嬉しいけれど、バッハを学ぶにはどうしたらいいのだろう？という状況でした。卒業後のコンサート活動としては、モーツァルトミサ曲のソリスト、新イタリア合奏団、ドイツ・バッハソリスト、ライブツィヒ・バロックオーケストラとの共演などがあります。オペラでは《魔笛》のパパゲーナ、《フィガロの結婚》のスザンナ、《夕鶴》のつう他を演じました。こんな中、バッハの演奏を目的として 1987 年に「岡山バッハカンタータ協会」が発足します。きっかけは、同年に倉敷で小澤征爾指揮「口短調ミサ」が公演され、合唱は地元のオーディション合格者たちでした。皆で参加し仕上げていく、その機運が高められた演奏会でした。そして、その時の素晴らしいテノールソリストが佐々木正利先生でした。今後も私自身の求める音楽の中心はバッハなのかもしれませんが、音楽する喜びやアンサンブルする楽しさを子どもたちに伝えることを忘れてはいけないと思っています。

佐橋 美起（さはし みき） ソプラノ 武蔵野音楽大学教授

◇略歴 武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。第 55 回日本音楽コンクール第 1 位。「NHK ニューイヤーオペラコンサート」「題名のない音楽会」に出演。オペラでは、《ヘンゼルとグレーテル》グレーテル、《魔笛》夜の女王、パパゲーナ、《リゴレット》ジルダ、《ポッペアの戴冠》アモーレ、《コジ・ファン・トゥッテ》デスピーナ、《仮面舞踏会》オスカル、《トゥーランドット》リユー、《ラ・ボエーム》ムゼッタなど多数。海外では、チロル州立歌劇場にてジルダ役でデビューを飾り、イングリッシュ・ナショナル・オペラとも契約、夜の女王、パパゲーナ、グレーテルで出演。2000 年&2008 年カーネギーホールのコンサートにも出演。ロンドン、エジンバラで《ウエスト・サイド・ストーリー》のマリア、《王様と私》のタプティムで出演。ブカレスト国立オペラで《夕鶴》のつうで出演、大成功を収めた。昨年、ブーランクのモノオペラ《人間の声》でも好評を博す。二期会会員。東京室内歌劇場会員。武蔵野音楽大学声楽コース教授。

◇抱負 この度、会員にならせていただきました佐橋美起です。私の師である木下武久先生が理事長でいらした発声学会の理事にと佐々木先生にお声かけいただきましたのも、ご縁を感じております。私自身、学生たちに教えていますが、それぞれの個性を活かし歌ってほしいと願う上で、あらゆる面からのアプローチが必要と、今強く感じております。分からないことも多いですが、経験豊かな皆様にご意見を伺いながら前向きに研究していきたいと思っております。どうぞ、ご指導よろしくお願いいたします。

吉田 浩之（よしだ ひろゆき） テノール 東京藝術大学教授

◇略歴 伸びやかで叙情性豊かな美声と確かな表現力で聴衆を魅了し、高い評価を受けている我が国を代表するリリコ・レジュエロ・テノール。《こうもり》のアルフレード役でのオペラ・デビュー以来、新国立劇場等のオペラ公演、内外のアーティスト、主要オーケストラとの共演は枚挙に暇がない。レパートリーは幅広く、オペラでは《魔笛》タミーノ、《椿姫》アルフレード、ワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》ダーフィットなどに加えて、R.シュトラウス、ブリテン、そして、日本オペラや新作オペラまで、オーケストラとの共演でも、バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等古典から、ドヴォルザーク、ベルリオーズ、ヴェルディ、オネゲル、リゲティなどにおよぶ。福井県敦賀市出身（福井ふるさと大使）。国立音楽大学声楽科卒業。東京藝術大学大学院修士課程（オペラ）修了。二期会オペラスタジオを優秀賞で修了。布施隆治、渡辺誠、渡邊高之助、高橋大海、故山路芳久、S.ローチ、A.ポーラの各氏に師事。1990 年、モーツァルト没後 200 年記念国際モーツァルト声楽コンクール本選入賞。その際、ウィーン国立歌劇場でウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と共演し国際的な活動の第一歩を踏み出した。翌 1991 年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてローマに留学、その間イタリア各地で数多くのコンサートに出演。1997 年、第 25 回ジロー・オペラ賞新人賞受賞。ソロ CD 「一粒の涙」 「proprio」。東京藝術大学音楽学部声楽科教授。

◇抱負 初めまして。テノールの吉田浩之です。この度、佐々木正利先生からのご推薦により新会員となりました。まだ、わからない事だらけで、ついていだけで精一杯の状態ですが、皆様に教えていただき、これから色々と参加させていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

渡辺 修身 (わたなべ おさみ) 指揮者 山形大学教授

◇略歴 北海道旭川市出身。国立音楽大学声楽科卒業後、桐朋学園大学オーケストラ研究生として指揮を学ぶ。声楽を益田道昭、指揮法を岡部守弘、紙谷一衛、飯守泰次郎の各氏に師事。桐朋学園大学在学中より東京室内歌劇場の公演や三木稔作曲《ワカヒメ》他の各公演の副指揮者を務めた。1993年渡独。アーヘン市立歌劇場にて音楽監督、北原幸男氏のアシスタントを務めた後、1996年よりライン・ドイツ・オペラ（デュッセルドルフ・デューイスブルク）歌劇場にて合唱指揮者、フォルクマール・オルブリッヒ氏、ヴォルフガング・デューンバルト氏のアシスタントを務めた。在独中、バッハ・アカデミー（シュトゥットガルト）等のマスタークラスに参加、研鑽を積む。2001年帰国。山形大学内外の活動の他、全国共同制作オペラ《こうもり》山形公演では合唱指揮を務めるなど幅広い活動をしている。山形大学地域教育文化学部教授。山響アマデウスコア指揮者。日本音楽表現学会会員。

◇抱負 オペラ劇場の数々の公演を通して、音楽スタッフとして、如何にして公演を成功に導くかを目の当たりにしてきました。山形大学へ奉職後、山響アマデウスコアの指揮者となり、合唱団の音楽監督である佐々木正利先生と出会いました。合唱指導を通して、正しい声楽発声の継続的な探求の必要性を感じていたところ、この度、佐々木会長よりご推薦をいただき理事を務めることになりました。微力ながら学会の発展のために全力を尽くしてまいりたいと思います。会員の皆様には、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆新入会員紹介

2023年度前期は19名の方にご入会いただきました。そのうち14名の方の自己紹介文を掲載いたします。なお、新入会員の岡崎順子氏、佐橋美起氏、吉田浩之氏は新理事として紹介しております。

①氏名 ②略歴 ③学会への抱負（敬称略、五十音順で掲載）



①秋元 彩佳 ②東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。現在、國學院大学北海道短期大学部助教、札幌大谷大学芸術学部非常勤講師として後進の指導にもあたっている。③この度は入会が叶い大変嬉しく思っております。入会后『声楽発声研究』No.13の幅広いテーマの研究や研修内容を読み、今後、様々な視点からより深く幅広く勉強させていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



①我妻 健太（あづま けんた） ②玉川学園大学文学部外国語学科英語コース卒業、京都市立芸術大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業、放送大学大学院文化科学研究科修士課程修了、第1回伊勢志摩国際声楽コンクール第3位、第2回国際声楽コンクール東京グランプリ部門入選。③時代や国、作曲家によって、歌い手に求められる声には違いがあると思います。正しい様式感を持って演奏できるよう、声についてこれからも学んでいきたいと思っています。



①**我妻 万希子** ②国立音楽大学声楽科卒、ギルドホール音楽演劇学校（英国）古楽科にて修士（MMus）修了。また、フランス・パリにおいて区立音楽院、スコラ・カントルム等に通いフランス語の歌唱について学ぶ。③「声楽」を科学的に捉えられるような視点を、歌唱芸術における諸先生、先輩方の研究発表を通して学ばせていただき、自分の声でも実践できるよう鍛錬していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



①**及川 泰生**（おいかわ たいせい）②岩手県出身。岩手大学教育学部学校教育教員養成課程音楽コースを卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科を経て、現在、同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻Ⅰ年次、二期会研修所予科クラスに在籍。声楽を小原一穂、佐々木正利、米谷毅彦、萩原潤の各氏に師事。③声楽家の方の生の演奏や、最新の発声に関する研究を知ることから多くのことを学び、自身の演奏に繋げていける場としていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



①**表 まり子** ②メキシコ、フランスでスペイン音楽やフランス音楽を学ぶ。現在、短期大学や専門学校などで教鞭をとる傍ら金沢、富山で合唱団を指導する。③この度は学会への入会を了承いただきましてありがとうございます。日頃抱いてきた声に関する疑問や気付きが、感覚的なものから一歩踏み込めるよう期待でワクワクしています。生きた声の理解を更に深める機会を得られた事に感謝申し上げ、情熱と希望を持って学んでいく決意です。どうぞ宜しくお願いいたします。



①**金井 英子** ②富山県立富山中部高等学校普通科、金沢大学医学部卒業、小児科医師。③高校の音楽の先生にドイツリートやオペラを教わり合唱指導を受けました。その後音楽から遠ざかりましたが、末の子が3歳になった時に子どもを連れて合唱練習に行きました。現在はミサ曲やバッハのカンタータなどを歌う合唱団に所属しています。美しい発声で聴く人に安らぎを与える事と、高校の恩師の様に90歳を超えても歌い続けるという二つの夢が実現できるようにこの学会で勉強させてください。



①**近藤 秀明** ②国立音楽大学音楽教育学科卒業。6団体の合唱指揮者を務める他、児童館や老人施設において、音楽講師として乳幼児から高齢者に至る幅広い年代の方々に、音楽の素晴らしさや楽しさを伝えている。かながわ合唱指揮者クラブ事務局長。近藤秀明音楽教室主宰。日本声楽発声学会会員。③発声のメカニズムをより勉強したく、入会をさせていただきました。自身の活動や指導に活かしていけるよう、多くの事を吸収したいと思ひます。



①佐藤 彩（さとう あや） ②名古屋市出身。愛知県立明和高等学校音楽科卒業。東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。東京音楽大学大学院修士課程オペラ研究領域修了。平成 28 年度山田貞夫音楽財団奨学生。二期会オペラ研修所 第 63 期マスタークラス修了。③自身がコロナ禍中に喉を壊し、手術、リハビリを経た経験から、現在解剖学・骨格からみた発声を研究しています。



①田中 弘樹 ②英国ロンドン大学、音声学・言語学研究科、音声学修士課程修了。現在、鎌倉女子大学教授。英語や日本語の話し言葉における発声と調音の相互作用に関する研究を行い、現在はクラシック歌唱における発声と調音の相互作用を研究中。第 10 回記念ウィーンオペレッタコンクール・ミュージカル部門、第 3 位入賞（1 位・2 位該当者なし）。③声楽発声のエキスパートの皆様が集う研究発表の場でしっかり学ばせていただきたいと存じます。ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。



①牧山 亜紀子 ②東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。声楽を川上勝功、故・朝倉蒼生、Uwe Heilmann の各氏に師事。ドイツ・ベルリン、スペイン・バルセロナにおいて研鑽を積む。南米ボリビア・ラパス国立音楽院にて教鞭をとる傍ら、ソリストとしてボリビア国立交響楽団、在ボリビア日本国大使館などにおいて多数演奏。③理論的な発声指導の重要性を、教育現場に居ながらにして実感していました。多岐にわたる分野の先生方のご研究を拝聴し、勉強させていただきたいと思います。



①森 幹男 ② 福井大学大学院博士後期課程修了。博士(工学)。防衛庁技術研究本部技官を経て、現在、福井大学工学部准教授。口笛奏者。③学生時代、大学の合唱団に所属しており、大学着任後数年間は歌声の研究を行いました。ここ 15 年間は口笛の研究を行っています。コロナ禍前は、口笛音楽サークルの演奏指導、コンクール審査員も務めました。また最近、歌声の研究を再開しました。どうぞよろしくお願いいたします。



①山内 純治（やまうち じゅんじ） ②福岡県出身。約 30 年の企業勤務と合唱・独唱活動の経験を活かし、「音楽家とサラリーマンの気持ちに寄り添う」整体師として東京都内にて開業中。声楽を、故森山秀俊、児玉祐子、櫻井愛子の各氏に師事。③歌唱における身体の使い方を長年研究しているため、顧客の大半は歌われる方（職業歌手・愛好家）です。新たな知識を吸収したいと存じます。よろしくお願い申し上げます。



①山口 智子（やまぐち ともこ） ②熊本大学文学部卒業。同大学合唱団 OG。声楽を上杉清仁氏他に師事。2015 年、荻窪にてオール・プーランクプログラムの歌曲リサイタルを開催。合唱団「カント・ダ・ベール」メンバー。 ③入会のご承認、誠にありがとうございます。学会で様々な学びや経験を通して、自らの声と音楽を一層豊かで幸せな物に出来ればと思います。何卒宜しくお願い申し上げます。

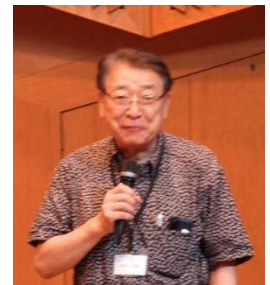


①山口 裕加奈（やまぐち ゆかな）、山田流箏曲：山口明裕賀（みゆが） ②東京藝術大学大学院修了（音楽学）。同大学院音楽教育研究室研究生修了。北海道教育大学岩見沢校非常勤講師。音楽教室に勤務する他、小中学校での箏曲指導、『能楽タイムズ』の編集に携わる。女声合唱団レガート東京団員。③幼い頃から西洋芸術音楽と邦楽を両方学んできました。今後研修会などにも参加し、発声についてより理解を深めていきたいと考えております。

皆様のご研究の益々のご発展と今後のご活躍をお祈り申し上げます。

◆夏季研修会報告

昨年 3 年ぶりに復活した対面式の夏季研修会は、去る 8 月 23 日（水）、24 日（木）の二日間、東京は新大久保の日本福音ルーテル東京教会を会場に、今年も平穩無事に充実した内容で催行されました。内容は昨年に勝るとも劣らないもので、3 人の講師の先生の講座は目を見張るものばかり、また歌の集いの出演者 4 人も、それぞれの個性を生かし端正で音楽性あふれる歌唱を聴かせてくれました。



新理事体制になってから初めてのイベントでしたが、例年にも増して多くの理事の積極的な関わりが故に、大変スムーズに運営がなされました。特に新たに着任した理事の協力は特筆ものでした。せっかくの内容の濃い研修会であったにも拘わらず、参会者が低調で、まだコロナ禍の影響が残っているのかとも考えられましたが、他にも原因があるとすれば、その因子を分析し改善を図る必要があるとして、終了後に開かれた理事会で議論いたしました。

昨年は業者に委託して、画面、音質とも最高級の録画収録を行い会員の皆さまに配信する試みを遂行しましたが、誠に残念なことに配信希望の申し込みは数名にも達せず、三十数万円の費用は無駄のままになっています。今からでも遅くはありませんので、希望される方は是非事務局に申し出ていただきたいと思います。



またここ 10 年来、山田実顧問のお力添えをいただいて、会場として日本福音ルーテル東京教会をお借りしていますが、ご存知のように教会は礼拝等があり土・日曜日は借りられませんので、必然的にウィークデイの開催となっています。これも参会者にとってはネックになっているのではという議論もあり、理事会では、思い切って来年は土・日での地方開催も視野に入れたらどうかとの意見も再燃し始めました（2020 年は盛岡で開催するべく準備を整えていたのですが、コロナ禍で断念した

経緯があります)。今のところ、佐々木会長の準地元である宮城県は蔵王町（ございんホール）での開催を検討しています。時期についても8月の第3週に拘らず、紅葉が始まる9月中旬までを視野に入れて検討中です。東京から約2時間、温泉に浸かりながら心と頭と身体のリフレッシュ、実現したなら何と素敵なことでしょう。

これ以外にも、どのような形にしていくか、お気づきの点がございましたらどしどしご意見をお寄せいただきたいと思いますし、アンケート等を実施し、皆さまの意見を反映すべく理事会でも諸々の算段を検討しておりますので、ご協力方、どうぞよろしくお願いいたします。

◎A 講座：特別講演

演題「関係性・存在・創造性～子どもたちの合唱体験の設計について」

講師 木下マティアス義久

A 講座は、「関係性・存在・創造性～子どもたちの合唱体験の設計について」という演題で、ヴォルフラーツハウゼン児童合唱団の指揮者木下マティアス義久先生にご講演いただきました。マティアス先生は、発声指導者として日本の音楽界を牽引された、故木下武久先生のご子息であらせられ、父上からフースラーの発声法を教授されたそうです。武久先生はミュンヘンでフースラーに直接師事され、木下発声研究所を設立、多くの優れた音楽家を育てられたことはご承知の通りです。



マティアス先生は、ウィーン少年合唱団に勝るとも劣らないドイツのテルツ少年合唱団を長年指導され、指揮者のG.シュミットガーデン氏から熱い信頼を勝ち得ていたといいます。

先生は児童合唱における個の存在、互いの関係性、創造性の大切さについて語られました。ヴォルフラーツハウゼン児童合唱団でもテルツ少年合唱団でも、年齢や選考基準に関係なく子どもたちを受け入れ、個別の特性を活かして音楽的な追求を目指させています。そこでは、特に人間関係の重要性を教えることによって、彼らの成長を促してきたといいます。また同時に、受容と創造の両輪を引き出す環境作りにより、子どもたちの成長を実践できるのだと確信されているとも仰いました。さらに、芸術的表現の重要性と自己イメージの育成についても言及され、音楽教育者（指導者）が自己信頼をもとに子どもたちの成長に貢献することがとても重要なのだ、と強調されました。

そして、子どもたちの成長を促す空間の作り方には、二つの要素があると語られました。まず、創造性と活気の涵養が重要だということ。これによって生徒はリラックスし、自分の間違いに気づいてそれを認める勇気を持つことができ、それが肯定感につながり、成長を実感し学習の喜びに目覚めるということです。次に、自己省察と内なる限界の見極めが重要であり、教育者は人間関係や社会的影響に注意を払い、内的信念に基づき対処することが大切であると説かれました。そして、芸術的表現は内的なものとながり、自発的な創造を促進させ、美しい瞬間を捉えるために、自己の限界とその克服を理解することが肝要である、と論を閉められました。

発声指導の具体的な実践方法は、あまり多くは示されませんでした。数少ないなりに出されたメソッドや歌声はとても自然で美しいものであり、例として聴かせてくれた、独自の編曲によるモーツァルトの“Laudate Dominum”やT.L.de ヴィクトリアのモテットの合唱は、まことに透明感と表現力に溢れ、先生の指導がより実効的で優越性のある、秀逸のものであることを確信した次第です。（佐々木正利）

◎B 講座：「現代日本の作曲家シリーズ 講座XI」

演題「言葉と旋律の関係、詞と和声の関係」

講師 信長貴富

B 講座は「言葉と旋律の関係、詞と和声の関係」という演題で、作曲家の信長貴富先生にご講演いただきました。現在、日本の合唱界で最も人気のある作曲家の一人である信長先生の、お人柄が慕ばれる優しく柔らかい語り口に、会場の熱気も心温まる心地よさに昇華して清爽感と共に講座は進みました。この雰囲気は、モデル合唱団として登場した川上勝功先生指揮のヴォーカルアンサンブル・ヴィクトリアの、ピュアで透明感のある歌声が醸成に貢献したといえるでしょう。

さて、信長先生はご自身の最近の傾向として、既存の詩からいくつかを組み合わせて有節歌曲的に作曲することが多いとし、言葉と旋律の関係、詩の内容と和声の関係を解説なさいました。とりわけ、日本語の音声学的特徴に触れ、「音節と拍」、「高低アクセントと強勢アクセント」、「モーラの等時性」、「歌の作曲法のグラデーション」について言及された後、ご自身の二部合唱の小品『うた』と『祈ってもいいだろうか』の2曲を受講生に実際歌っていただきながら、具体的に解説、指導を行なわれました。

その実際は、コードの多様な変化、エモーショナルな動静、モチーフのリレーアナリゼ、音色の明暗、語り（朗唱）と歌（詠唱）、クライマックスの見定めと表出法等々、実に多岐にわたり、充実した時間となって、受講生は多くのものを学び取っていったと思います。（佐々木正利）



◎C 講座：「公開講座」音声生理学講座

演題「声の出るメカニズム」

講師 萩野仁志

C 講座は「声の出るメカニズム」と題して、はぎの耳鼻咽喉科 萩野仁志先生がご講演くださいました。お父様である萩野昭三先生も当学会にご貢献された方です。萩野先生は声楽家の後野仁彦氏と共同研究してこられました。現在は声楽家の高橋未来子氏がアシスタントをされていて、本講演でも発声の例を実演してくださいました。発声の基本は声帯の振動で起きた音の共鳴です。声帯で声の高低を調節する仕組みを、ストロボスコープを用いたビデオ映像で示してくださいました。さらに構音において、アカサタナと発音した時の軟口蓋の動きで鼻腔共鳴を説明されました。また耳管開放症と軟口蓋の関連をビデオ供覧されました。声のパートと声帯の大きさの関係を述べられ、歌う時の姿勢としては、前傾して顎を突き出して歌うとノドが狭くなってしまう弊害を実演で見せてくださいました。腹式呼吸と息の吸い方、顎の開け方、アンザッツについて、喉をひろげて歌う事をご教示されました。声のエネルギーを視覚化するフォルマントについて、音響分析によって、各母音でフォルマントが違う事やシンガーズフォルマントなどにも言及されました。



声帯病変に対する治療法も述べられ、先生の音声外来では音響分析による周期や振幅の揺らぎを計測されています。また、コロナや音声障害患者に対する EAT（上咽頭擦過治療）について詳しく説明してくださいました。音声生理の基礎や呼吸法、姿勢、音響分析などから音声指導、疾患の治療に至るまで幅広くお話しくださり、参加者は多くの知見が得られた講習でありました。（竹田数章）

◎D 講座：「歌の集い」

今年度「歌の集い」は、連日の猛暑の午後に開催されました。ご出演の皆様は当日 9:30 に集合され、司会の齊藤による進行等の説明の後、10:00 から登場順に約 20 分間のリハーサルを行い、午後からの本番演奏に備えていただきました。

「歌の集い」の主旨は、「学会会員の皆さまの研究活動の発表の場をつくり、その研鑽の成果を皆さまで分かち合う」ということです。発表に際して、他者からの批評は一切無く、演奏者が自らの発表の場を持つことで、ご自身の「気づき」や「学び」の場としてご活用いただいて、個人の研究を更に深めていただくことが大切です。会場の皆様は、とても熱心に聴いておられ非常に集中した空気がホールに満ちていました。

出演者の方々は日頃のご研鑽の成果を演奏され、演奏の後には会場の皆様から盛んな拍手がおくられておりました。そして、各演奏後に、演奏者と司会者との短いインタビューを設け、①歌唱上の表現の工夫、②今後の研究計画、③異なる言語の発音、④その他、について意見交換を行いました。

今回の出演者の特徴と申しますのは、全員が本年度入会の新会員であるということです。本演奏会の聴取者の皆様も、新会員の皆様の瑞々しい演奏を目の当たりにされ、今後の学会の発展を確信され、期待されたことと拝察いたしております。

なお、「歌の集い」プログラムと歌詞・対訳は、各演奏者からご提出頂いた資料を基に、広報部門の担当理事達によって原稿を作成し、その後事務局の協力により印刷作業が行われました。また、会場の設営や受付設置は、前日の B 講座の終了後、会長はじめ出席理事有志による作業によって、2 階礼拝堂のピアノや座席の移動、ステージ上の整理等を行いましたことをご報告いたします。（齊藤祐）

[出演者及び演奏曲]

◎及川 泰生 Bar. (Oikawa, Taisei) Pf. 木邨清華 (Kimura, Sayaka)

- ・「万霊節の連祷」 作曲：F.シューベルト 詞：J.ヤコービ
- ・「ガニュメート」 作曲：F.シューベルト 詞：J.W.ゲーテ
- ・「二人の擲弾兵」 作曲：R.シューマン 詞：H.ハイネ
- ・オペラ《密猟者》から〈快活さ、そして陽気さ〉
作曲&脚本：A.ロルツィング



◎表 まり子 Sop. (Omote, Mariko) Pf. 樺澤とも子 (Kabasawa, Tomoko)



- ・「そはやるせなき」 作曲：C.ドビュッシー 詞：P.ヴェルレーヌ
- ・「愛は何処から？」 作曲：J.ロドリゴ 民謡
- ・「ポプラの林から来たよ、母さん」 作曲：J.ロドリゴ 民謡
- ・「ヴォカリーズ」 作曲：S.ラフマニノフ
- ・「お星さま」 作曲&詞：M.M.ボンセ

◎西野 真史 Ten. (Nishino, Masahumi) Pf. 樺澤とも子 (Kabasawa, Tomoko)

- ・「アデライーデ」 作曲：L.v.ベートーヴェン 詞：F.v.マティソン
- ・オペラ《カルメン》より〈君が僕に投げた花は〉作曲：G.ビゼー
脚本：H.メイヤック&L.アレヴィ
- ・ミュージカル《ウエスト・サイド・ストーリー》より〈マリア〉
作曲：L.バーンスタイン 脚本：A.ローレンツ



◎牧山 亜紀子 M.Sop. (Makiyama, Akiko) Pf. 塚本雅子 (Tsukamoto, Masako)



- ・オペラ《皇帝ティートの慈悲》より〈行きますとも、いとしい人よ〉
作曲：W.A.モーツァルト 脚本：P.メタスタジオ&C.マッツォーラ
- ・「カプリ（アイマラの魂）」 作曲&詞：E.カバ
- ・「エル・ビト（踊り）」 作曲：F.オブラドルス スペイン民謡
- ・サルスエラ《セベデオの娘たち》より〈とられ人の歌〉作曲：R.チャピ
詞：D.ホセ・エストレメラ
- ・オペラ《カルメン》より〈ハバネラ〉作曲：G.ビゼー
脚本：H.メイヤック&L.アレヴィ

◆木下武久先生墓参のご報告

顧問・前会長 川上 勝功

木下武久先生の 33 回忌に合わせて、先生のご子息の木下マティアス義久氏と共に墓参りをしました。

武久先生は、日本声楽発声学会創設者の柴田睦陸氏の後、小田野正之氏を経て理事長を務められたお方です。私が藝大に在学していた頃から、先生が 66 歳で急逝されるまでの間、私にとりましては声楽発声のコーチとして指導をしていただいた方です。私がアメリカ留学から帰国後には、「君はアメリカで素晴らしい勉強をしてきたようだね。これから君は、私の弟子ではなく、共同研究者としてやって行こう」とはっきりと仰ってください、事実そのようにしてくださったのです。木下武久先生とはそういうお方でした。

私がまだ大学生で木下邸にレッスンに伺っておりました頃、義久氏はまだ小学生だったと記憶しております。加えて、私は大学を卒業しましたらすぐにもドイツに留学したいと考えておりましたので、幸運にも武久先生の奥様でおられたギゼラ木下夫人から、ドイツ語の会話とディクションを教えていただくことができました。(残念ながら訳あってドイツ行きは実現しませんでした…!!)

その後、義久氏とは、2005 年に京都で開催された “世界合唱シンポジウム” でお会いして以来、18 年振りの再会となりました。

奇しくも武久先生の 33 回忌に、一緒にお墓参りが実現いたしまして、不思議なご縁というか、“絆” にも似た、目には見えない繋がりを感じたものでした。

お墓参りの当日の東京は 35 度以上の猛暑でしたが青山墓地近くの鮎店で 5 日後に行われる研修会の打合せをいたしました。その折、私の方から、子ども達を前にした時に、初歩の発声をどのように指導されておられるのか質問したところ、なんとなんと、私が常に言葉に出して話している、発声の基本は “It is easy!!” をそのまま地で行く答えが返ってまいりました。私が普段、声楽を学ぶ初心者に行っている指導法とそっくりそのままの指導法を見せてくださいました。発声の仕組みはシンプルで、全く簡単なのですよという思いも全て一致しておりました。トレーニング方法もほぼ一緒でした。美しい声作りの原点を再確認させていただいたものです。

講演当日、私が挙手をいたしまして、義久氏にその時のお話をしてくださいと申し上げたのが、“それ” でした。会場の皆さまはどのように受け止めてくださったかは分かりませんが、私は、発声の原理のうち、最も大切な部分と思っております。

今回の義久氏の学会での講演の様子は、新会長の佐々木正利先生より、『学会通信』第 51 号にて全てを報告していただくことになっておりますので、どうぞご期待ください。

右の写真は令和 5 年 8 月 18 日に青山霊園内の木下武久先生の墓参をした時のものです。
お墓を挟んで左が木下マティアス義久氏、右が筆者（川上）であります。



◆理事会、執行部会、開催記録（2023年5月～2023年9月）

理事会開催記録

◎第1回理事会議

- 1.招集形態：対面式（第112回例会終了後）
- 2.開催日時：2023年（令和5年）6月4日（日）18時00分～19時40分
- 3.会場：東京文化会館小会議室2
- 4.出席者：佐々木正利、池田京子、齊藤祐、森井佳子、入川めぐみ、上杉清仁、梅村憲子、岡崎順子、小森輝彦、三枝英人、田中昌司、渡辺修身、佐々木徹（事務局）
欠席者（委任状あり）：佐橋美起、竹田数章、鈴木慎一郎、西浦美佐子、吉田浩之

◎第2回理事会議

- 1.招集形態：Zoomによるオンライン会議
- 2.開催日時：2023年（令和5年）7月3日（月）19時00分～21時15分
- 3.出席者：佐々木正利、池田京子、齊藤祐、森井佳子、入川めぐみ、上杉清仁、梅村憲子、岡崎順子、小森輝彦、鈴木慎一郎、竹田数章、田中昌司、西浦美佐子、渡辺修身、佐々木徹（事務局）
欠席者（委任状あり）：三枝英人、佐橋美起、吉田浩之

◎第3回理事会議

- 1.招集形態：Zoomによるオンライン会議
- 2.開催日時：2023年（令和5年）8月8日（火）19時00分～21時00分
- 3.出席者：佐々木正利、池田京子、齊藤祐、森井佳子、入川めぐみ、上杉清仁、梅村憲子、岡崎順子、小森輝彦、三枝英人、佐橋美起、竹田数章、田中昌司、西浦美佐子、吉田浩之、渡辺修身、佐々木徹（事務局）
欠席者（委任状あり）：鈴木慎一郎

◎第4回理事会議

- 1.招集形態：対面式
- 2.開催日時：2023年（令和5年）8月24日（木）16時00分～17時40分
- 3.会場：日本福音ルーテル東京教会（夏季研修会終了後）
- 4.出席者：佐々木正利、齊藤祐、森井佳子、入川めぐみ、上杉清仁、梅村憲子、佐橋美起、鈴木慎一郎、竹田数章、西浦美佐子、渡辺修身、佐々木徹（事務局）
欠席者（委任状あり）：池田京子、岡崎順子、小森輝彦、三枝英人、田中昌司、吉田浩之

執行部会開催記録

◎第1回執行部会議

- 1.招集形態：対面式
- 2.開催日時：2023年（令和5年）6月23日（金）12時00分～13時45分
- 3.会場：椿屋珈琲店
- 4.出席者：佐々木正利、池田京子、齊藤祐、森井佳子

◎第2回執行部会議

- 1.招集形態：Zoomによるオンライン会議
- 2.開催日時：2023年（令和5年）7月13日（木）19時00分～21時00分
- 3.出席者：佐々木正利、池田京子、齊藤祐、森井佳子、竹田数章

◎第3回執行部会議

- 1.招集形態：Zoomによるオンライン会議
- 2.開催日時：2023年（令和5年）9月11日（月）19時00分～20時45分
- 3.出席者：佐々木正利、池田京子、齊藤祐、森井佳子

◆開催予告

◎第113回例会 2023年11月26日(日) 会場：東京藝術大学

- 研究発表：1. 豊田喜代美「声楽家・柴田睦陸と声楽発声（仮題）」
2. 斉田晴仁「体壁振動からの声区の考え方について」
3. 梅村憲子、森幹男「日本語歌唱時における母音の明瞭性について」

○特別講演：廣芝新也（京都耳鼻咽喉科音聲手術医院院長）「声の悩みを解消する医師」

○「現役声楽家の演奏とお話」 講師：佐橋美起

※例会案内チラシを同封しております。変更等はホームページでお知らせします。

◆事務局からのお知らせ

①6月4日に行われました第112回例会・第59回総会の折に、川上前会長が学会財政の窮状を訴えたところ、会員の長谷川朝子様よりご寄附をいただきました。心より感謝申し上げます。

②学生会員の会費等見直しについて以下のように理事会決定（2023. 8.24）をいたしました。

学生臨時会員 1,000 円、夏季研修会 1 日 1,000 円、大学院生入会金 5,000 円、年会費 2,000 円、に改定し、第113回例会から施行。これについて異議、ご意見等あれば事務局にお寄せください。

③日本声楽発声学会の Facebook 公式アカウントができました。最新情報の入手や、演奏会情報の告知、会員同士の交流にお役立ていただけると幸いです。また、夏季研修会についての web アンケートを行いますので、右の QR コードよりご回答をお願いいたします。参加、不参加を問わずご回答ください。アンケートの回答期限は 2023 年 12 月 1 日（金） です。

④ホームページに学会通信カラー版を掲載しております。



編集後記

学会通信第50号をお届けします。6月に佐々木正利会長の下、新体制の理事会が発足しました。コロナ禍を経て Zoom によるオンライン理事会が標準的になりましたが、対面で理事が集うと、やはりお互いの体温や息遣い、声の響きを感じながら意見を交換する時間は大変尊いものであると感じました。第50号は新理事紹介と新入会員紹介の記事とともに、学会の最大イベントである夏季研修会を特集しました。紙面から新しい風が伝われば幸いです。（森井佳子）

日本声楽発声学会事務局 佐々木 徹

e-mail:info@jars-voice.org

Tel/Fax:03-6804-0626

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-14-4

振替口座：00170-0-119920

日本声楽発声学会 HP

<http://www.jars-voice.org/>

学会通信第50号

2023年（令和5年）10月発行

発行者：日本声楽発声学会

編集者：入川めぐみ 上杉清仁

齊藤祐 森井佳子